

# もりおか NPO 通信

Vol.15

発行：もりおかNPO連絡協議会

〒020-0871

盛岡市中ノ橋通 1-1-10 プラザおでって 1 階

もりおか市民活動支援室内

TEL：050-7574-7674

FAX：019-651-0646

Mail：info@morioka-npo.net

URL：http://www.morioka-npo.net/



## 平成 23 年度 通常総会

平成 23 年 5 月 19 日（木）18 時から、アイーナの団体活動室 2 で「平成 23 年度通常総会」を開催しました。

当日は、46 団体（内 出席団体 19 団体 25 名 委任状出席 19 団体 文章表決 8 団体）の出席を得て、昨年度の事業や収支決算、今年度の事業計画や予算等について、審議をしていただきました。

総会終了後は、参加者の皆さんと情報交換等を行いながら、親睦を深めました。

今年度は、90 団体の構成でスタートしました。



平成 23 年度 第1回 交流サロン

**みんなで考え、行動しよう＝復興支援＝内陸の私たちができること**



6月2日(木)18時30分から、アイーナの団体活動室2で「復興支援」をテーマに、33名の方にご参加をいただき、交流サロンを開催しました。

話題提供者に「東日本大震災被災地支援チーム SAVE IWATE」代表理事の寺井良夫さんをお招きし、被災地支援の取り組みについて、お話をいただきました。

寺井さんは、3月11日の地震が起きた翌日には沿岸部に車を走らせ、現地の状況を見て、「何とかしなければ！」との思いで「SAVE IWATE」を立ち上げました。

はじめにホームページを作成し、多くの方に活動への参加を呼びかけました。

そして、物資を募集し、毎日のように被災地へ物資を届け、また何をすべきか話し合うワークショップの開催や、炊き出しの手伝い、県外からのボランティアの受入、避難所落語キャ

ラバンなどのイベント開催等、様々な活動を行ってきました。

現在は、被災地に近い場所にボランティアキャンプ村の設置も検討しています。

また、内陸部に避難してきている方への支援



として、タオルと裁縫道具をお渡しし、雑巾を縫ってもらい、それを販売し支援金にまわす活動も行なっています。

さらに兵庫や新潟、静岡の方々やNPO法人日本ユニバなど、様々な団体と連携を取りながら、幅広い活動を行なっています。

「今後の活動で必要となってくるのが、民間や行政との連携」と寺井さんは説明します。

内陸部の私たちが一致団結し、県をあげて、未来に向かい活動していく必要性についてお話をいただきました。

## 参加団体 活動紹介



交流サロンにご参加をいただいた方の中で、支援活動をされている、社会福祉法人盛岡社会福祉協議会さん、プロミス株式会社盛岡お客様サービスプラザさん、NPO法人風・波デザインさん、ぼくらの復興支援いわてゆいっこ盛岡支部さん、もりおかワカものプロジェクトさんからも、各活動について、ご紹介をいただきました。

各団体、そして、個人の方が、復興に向け、今、それぞれできることを行なっています。この1つひとつが、とても大切なことで、大きなパワーへと繋がっていきます。

今回は、今後の復興に向けて支援を続けていくための貴重な情報交換の場となりました。

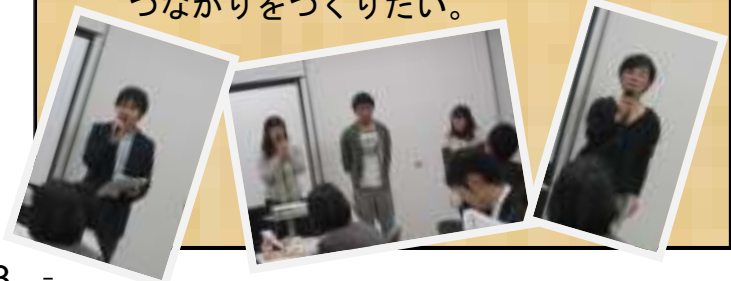
## 交流会



今後の復興に向け、参加者の皆さんで、情報交換などが行われ、大変有意義な交流会となりました。

## 参加者の皆さんの感想 (一部抜粋)

- SAVE IWATE さんの現場での復旧から復興というそのの広い活動に感銘を受けました。
- 寺井さんのフットワーク、アイデアに感心。(復興ぞうきん etc・・・)
- とても勉強になりました。いっぱいアイデアをいただきました。これからも、こういう会を続けて、つながりたいし、もっと勉強したい。
- SAVE IWATE さんの活動をお聞きして、「行動」することが、まず大事であると思いました。難しいというだけではダメだと改めて考えさせられました。
- 大変勉強になりました。連携の重要性をあらためて認識しました。
- つながる機会をありがとう。
- 他の団体の情報は、限られた団体しかわからないこともとても多くあるので、一度にいろいろな団体の話をきけてよかった。
- 他の人の考えを聞くことで多くの発見がありました。自分だけでは思いつかないことを自分の力にできたこと、ありがたかったです。
- 現場の生の声が聞けて大変参考になりました。
- 様々な立場の方々のご意見聞けて非常にためになりました。
- 町内に避難しているの方々同士、地域とのつながりをつくりたい。



## 地縁団体・市民活動団体研修交流会 事例から学ぶ地域協働のまちづくり



### 滝沢村と紫波町の協働事例から盛岡のまちづくりを考える

7月7日(木)14時30分から、盛岡市総合福祉センターで「地域協働のまちづくり」をテーマに、地縁団体・市民活動団体研修交流会を開催し、延べ40名の方にご参加いただきました。

はじめに、盛岡市から地域協働の取り組み説明があり、その後、地域協働の具体的な取り組みとして滝沢村（滝沢村役場・東部地域まちづくり推進委員会）、紫波町（紫波町役場・佐比内山ひだの会）の各取り組みについてご紹介いただき、今後の地域協働のまちづくりについて考えました。

### 盛岡市の取り組み

盛岡市市長公室地域協働推進事務局主査の太田真さんより、今年4月に策定した「盛岡市地域協働推進計画」について説明がありました。

この計画は、多様な団体が協働し、得意分野を活かし、自主的に活動することにより、より住みやすい地域になるよう策定され、今年度は、モデル地域3地区を決め試行的に取り組んでいくことになっています。

そして、今後、各地域の活動などを支援する制度や地域協働の環境を整えるための制度構築を行っていく予定となっています。



## 滝沢村の取り組み

滝沢村住民環境部住民協働課主査の高橋克周さんからは、住民の満足度を上げ、より幸せな地域社会を目指すため、住民と共に制定した「滝沢地域デザイン」についてお話を伺いました。

主な取り組みとしては、27 地区ある自治会を 10 地区に分けて、地域まちづくり推進委員会を立ち上げ、盆踊りや運動会などの地縁を深める事業だけでなく、将来の地域を見据えた事業計画を作成し、活動をしています。

また、行政と地域を結ぶコーディネーターとして各地域に 2 名ずつ村の職員を「まちづくり協働推進職員」として配置しており、会議や行事等に参加しています。

その結果、地域の視点で目標を設定することができるようになり、地域ならではの事業を展開できるようになりました。そして、住民と行政が共通認識を持って、取り組みをできるようにもなったそうです。

東部地域まちづくり推進委員会会長の及川博康さんより、活動紹介をしていただきました。

東部地域まちづくり推進委員会は、4 つの自治会から構成されており、主に環境、広報、福祉の 3 部会に分かれて活動をしています。

環境部会では、川の水質改善事業や滝沢の花・ヤマユリを植える事業等を行い、イワナの繁殖地やホタルを見ることができるようになりました。

そのほか、若い方からお年寄りまでが地域で安心して生活できるように、スマイルハートあいさつ運動や学校に隣接した学童保育の設置、お年寄りが倒れたときに、あわてずに救急車を呼べるように、緊急連絡先早見表を作成する等の事業を行っています。

成果として、地域を超えて交流することができ、様々な技能を持った方を地域の中から見つけることができた等が挙げられました。

また、課題としては、活動拠点がなくことや、一般の方への周知方法等が挙げられました。

## 紫波町の取り組み

紫波町経営支援部企画課主任の坂本芳枝さんからは、「地区創造会議」についてご紹介をいただきました。

地区創造会議は、地区ビジョンを話しあう場で、自分たちの地域を見つめ直し、地域課題を解決し、地域の素材を活かしながら、まちづくりを行う会議です。この会議では、誰でも参加でき、全員が発言し、他の人の意見を批判しない等のルールのもと、参加者一人一人の意見を大切にしながら会議が進められています。

この会議を通じて、実際にコミュニティビジネス等の新しい取り組みが始まり、自治力の強化や魅力ある地域が増えていくことが期待されています。そして、今では、これまでの取り組みが役場職員や地域に浸透されはじめ、市民活動の活性化にもつながってきたそうです。

佐比内山ひだの会代表の山下研悦さんより、活動紹介をしていただきました。

5 回の地区創造会議を開催し、地域づくりの目標を立て、地域を楽しく生きるための戦略会議「佐比内山ひだの会」を結成しました。

そして、「佐比内を PR し交流人口を増やそう！」との思いで、南部藩最大の金山を活かした取り組みを行っています。

金山の史跡探訪現地調査会とトレッキングコースの整備を行い、「佐比内金山・隠れ切支丹物語 歴史巡りトレッキング」を開催すると 106 名もの参加がありました。

今後は地域全体で、佐比内の自然や歴史等を大事にしながら未来に向けて活動を続けていきたいとお話でした。

## つながるってあったかい NPO まつり 2011

9月11日(日)10時～14時まで、ホットライン着町北日本銀行前でNPOまつり2011を開催しました。

今年は、活動紹介パネル展示に20団体、体験コーナーに9団体、販売コーナーに4団体、そして、さんさ披露に1団体と延べ34団体の皆さんと力を合わせて、各団体の活動PRを行ないました。

当日は、約200名の方にご来場いただき、NPOまつりの終わりには、みんなで復興に向けさんさ踊りを踊りました。



## パネル展示



### <参加団体>

- ◆NPO法人のびっこ寮育センター ◆盛岡地区更生保護女性の会
- ◆盛岡消費者友の会 ◆NPO法人盛岡市ファミリーサポートセンター
- ◆NPO法人緑の相談室 ◆街づくり集団「ゆいネット盛南」
- ◆コムスポクラブ東厨川 ◆独立行政法人国際協力機構東北支部
- ◆NPO法人風・波デザイン ◆NPO法人シニアパワーいわて
- ◆岩手県ユニセフ協会 ◆NPO法人もりおか配食サービス
- ◆盛岡高齢社会をよくする女性の会 ◆NPO法人岩手音声訳の会
- ◆NPO法人自立学習支援 NPO ジュニアアップ ◆NPO法人いわて森林再生研究会
- ◆ヒューマンネットワーク ONE WORLD ◆盛岡市少年指導員連絡協議会
- ◆NPO法人まつぞのスポーツクラブ ◆NPO法人アイディング

## 体験コーナー

<p>牛乳パックで パズルボックスを作ろう！ 盛岡消費者友の会</p>	<p>昔なつかしいあそび 笛やとんぼを作ってあそぼう！ 盛岡市少年指導員連絡協議会</p>	<p>おばあちゃんと一緒に 懐かしい遊びをしよう！ (社)盛岡市シルバー人材センター</p>
		
<p>お気軽無料相談会 NPO法人シニアパワーいわて</p>	<p>ふるさとガイドさんとみつける 盛岡魅力再発見ツアー！ 盛岡ふるさとガイドの会</p>	<p>ニュースポーツ体験 NPO法人まつぞのスポーツクラブ</p>
		
<p>木のお医者さんと歩く盛岡城跡公園！ NPO法人緑の相談室</p>	<p>ぶんぶんゴマを作って エチオピアの子ども達に贈ろう！ 親子で学ぶひまわり塾</p>	<p>ピワ温圧療法 NPO法人施術ボランティア 救療隊岩手支部</p>
		

## チャリティー販売

<p>NPO法人いわて翼の会</p>	<p>岩手県ユニセフ協会</p>	<p>NPO法人 参画プランニング・いわて</p>	<p>親子で学ぶひまわり塾</p>
			

平成 23 年度 第 2 回 交流サロン  
**NPO 法制度の最前線 ～シーズの関口さんと語り合おう！～**



10月26日(水)17時30分から、アイーナ6階団体活動室3で、「新寄付税制やNPO法改正」をテーマに交流サロンを開催しました。

話題提供者に「NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」プログラム・ディレクター関口 宏聡さんをお招きし、23名の方にご参加いただきました。

はじめに、今年6月から施行された新寄付税制と、来年4月より施行される改正NPO法の仕組みについて説明がありました。

「認定NPO法人への寄付者は所得税・住民税などの税額控除が選択可能になる」ことや「認定NPO法人は様々な税制優遇が付与される」こと等、認定NPO法人は寄付を集めやすくなるといった点が紹介されました。

続いて、シーズの活動が紹介され、NPO独自の会計基準の策定、ファンドレイジング協会設立など、これまでの取り組みとその取り組みへの思いについてもご紹介いただきました。



今回の改正は、NPO 法人らしさ（市民参加性や非営利性、情報公開・透明性、活動の柔軟性・多様性等）をより一層拡充する改正であり、シーズをはじめとした市民ネットワークが自ら働きかけて策定された点も特徴として挙げられます。

また、東日本大震災以降、「震災を受けて、国民の8割～9割が何らかの寄付をした」という調査結果もあり、市民やNPO側の「寄付」に対する関心・参加は高まっていくことが予測されます。

そして、阪神・淡路大震災をきっかけにボランティアへの参加が増加した「ボランティア元年」と言われるのと同じように、2011年は「寄付元年」と言われるようになるかもしれないと述べ、復興に向け、NPOがそれぞれの分野での政策提言が大事になり、提言できる団体が出てくるかどうかにより復興に向けての動きが変わってくるのではとのお話をいただきました。

## 意見交換

その後、質疑応答が行なわれ、認定NPO法人認定までのスケジュールについての質問や、今回の新寄付税制はどのくらい認知されているのか、また、どのような媒体で広報されているのか等、様々な質問が出されました。

最後に、「これからの岩手県、そして自分の所属している団体の活動が活発になるには何が必要か」について、会場の皆さんからご意見をいただき、情報共有を行いました。

## 交流会



話題提供者の関口さんを交えて交流会を行い、今後のNPO活動について、それぞれ熱い思いを語り合いました。

## 参加者の皆さんの感想（一部抜粋）

- ・ NPO 法が改正されて、活動がしやすくなることはとても良いし、それを聞くことが出来てよかったです。お話も聞きやすく、わかりやすかったです。
- ・ 制度の話・・・しっかり聞いたこともなく勉強になりました。こういうことは、理事会でも話題にしたいものです！
- ・ 最新の情報をお知らせいただき大変参考になりました。
- ・ 講師の関口さんの話は分かりやすく勉強になりました。各NPOの皆さんの発言が参考になりました。
- ・ とてもわかりやすく楽しいお話を聞くことができました。
- ・ NPO 法人の勉強の第一歩をこの会に出席でき大変光栄に思います。
- ・ もう少し会合の時間があればと思いました。多分、新参加者で何も知識がなく参加させて頂きましたのでそう感じたのだと思います。
- ・ 参加者との意見交換もあり良かった。中間支援の役割を広げる場面を拡充する必要があると感じた。
- ・ 寄付する側の税制について法改正され、寄付が得られやすくなることを知り、期待が持てた。



## 企業 NPO 合同研修会 消費者が応援する企業とNPOへ



### 寄付金付き商品によるマーケティング

11月9日(水)13時30分から、岩手教育会館で「寄付金付き商品」をテーマに企業NPO合同研修会を、もりおか市民活動支援室と共催で開催し、40名の参加がありました。

Causebrand Lab.代表の野村 尚克さんから「寄付付き商品における企業とNPOとの連携」について講演をいただいた後、事例発表として、株式会社あさ開さんと株式会社岩手銀行さんより、各取り組みについてご紹介いただきました。

### 講演「寄付付き商品における企業とNPOとの連携」

Causebrand Lab.代表の野村さんから、様々な調査結果をもとに、社会における企業、NPO、消費者の関係性、さらに、社会課題を解決するパートナーとしての企業とNPOの関係性について、事例を踏まえながらお話いただきました。

東日本大震災後、買い控えが現れた一方で被災地支援として被災地の商品を購入しようとする消費者の意識が高まり、コーズブランド（寄付金付き商品）への関心が高まりました。

また、CSR（企業の社会的責任）の観点からも東日本大震災の継続的な支援として雇用創出や寄付金付き商品の取り組みが注目されています。

そして、企業が利益を生みながら社会貢献活動に取り組む仕組み、コーズブランド（寄付金付き商品）についての説明もありました。

義援金は企業の資金から拠出するため企業の負担も大きくなりますが、寄付金付き商品は売り上げに応じた寄付ができるため、企業の負担が軽減され継続的に支援できることから期待されています。

企業が NPO に求めるものとして、パートナーは知名度より実績を重視するという調査結果が出ており、寄付金がどのような活動に使われていくのかということが企業と NPO が連携する上では重要なこととなります。

そのため、NPO が企業から支援してもらうためには情報公開をしっかりと行うことが必要となり、企業からの義援金や支援金がどのように社会に役立っているか、その様子を分かりやすく情報公開していく必要があります。

企業と NPO が、社会問題を解決するという1つの目標に向かい、互いを認め合いながら取り組んでいく必要性についてお話をいただきました。

## あさ開の取り組み

株式会社あさ開 経営管理部部長の菅原敏彦さんから、これまでの取り組みについて、ご紹介いただきました。

震災前から、寄付金付き商品を販売しており、その多くは依頼者から直接持ち込まれる企画です。

企業が長く続いていくためには、社会にとって必要な企業であることが重要であると考え、寄付金による地域貢献のほか、生産地域の発信や日本酒愛飲層の拡大等、様々な取り組みをし

ており、その思いが合致した依頼者と商品開発を進めています。

東日本大震災の復興支援プロジェクトとして取り組んでいる「飲み比べ福箱セット」は、販売方法の工夫もしており、全国へ向けて楽天市場で販売されています。

今後も継続した応援ができるよう、取り組んでいきたいとのことでした。



## 岩手銀行の取り組み

株式会社岩手銀行 取締役 営業統括部長 佐藤克也さんから、3月11日に発生した東日本大震災をきっかけにスタートした、クレジットカード「I beOne」の取り組みについてご紹介いただきました。

この地域貢献型カード「IbeOne」で買い物した額の0.1%やポイントが、震災孤児や震災遺児の就学支援を行う「いわての学び希望基金」に寄付されることとなっています。

今回の震災で多くの子どもたちが震災孤児・遺児となっている現状から、岩手の未来を担う子どもを支援したいという思いや支援を

受けた子どもが将来岩手に残って岩手に貢献してくれるのではないかと期待を込めて、子どもを対象とした商品にしました。

また、「IbeOne」の利用を通して、消費者が気軽に地域貢献、復興支援に関わりながら、地元消費喚起が図られることも期待しています。

そして、これまで取り組んできた福祉、医療、環境等の分野に寄付されてきたお話もいただきました。



# あなたも一緒に 盛岡の街を 元気にしませんか！

もりおか NPO 連絡協議会の活動を応援、賛同していただける皆様からの協賛金を受け付けております。

一人ひとりが笑顔で、生き活きと暮らせる盛岡になるように、あなたも街づくりの第一歩を踏み出してみませんか？皆様からのお志をお待ちしております！

**協賛金** 個人一口 3,000 円/法人一口 10,000 円

**協賛方法** 直接、事務所もしくは事務局の NPO 法人アイディングにご持参いただくか指定口座へお振込みください。

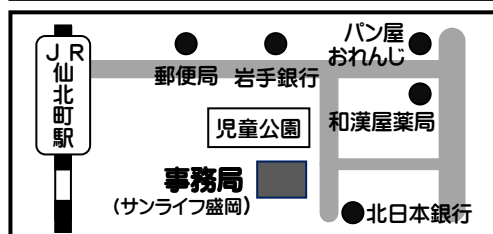
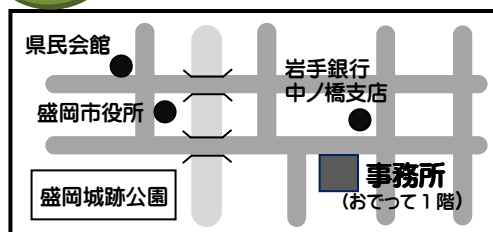
**振込み先** 北日本銀行 仙北町支店 普通 2381711

**口座名義** もりおか NPO 連絡協議会 会長 浅沼道成

※ご協賛頂いた場合、お名前の公表に同意を頂いた方は、当会が発行しております会報やホームページ等で、お名前をご紹介します。



## 問い合わせ先



### ■事務所 もりおかNPO連絡協議会

〒020-0871 盛岡市中ノ橋通 1-1-10 プラザおでって 1 階  
もりおか市民活動支援室内  
TEL : 050-7574-7674 FAX : 019-651-0646  
Mail : info@morioka-npo.net  
URL : http://www.morioka-npo.net/

### ■事務局 特定非営利活動法人アイディング

〒020-0861 盛岡市仙北 2-4-12 サンライフ盛岡内  
TEL : 019-635-1200 FAX : 019-635-9601